

報 告 書

2020年11月17日

活動実施団体名 千葉県生物学会

責任者名 藤田隆夫

報告書作成者名 木村研一、藤田隆夫

1. 活動の名称 (タイトル・テーマなど)

秋の観察会

2. 実施日

2020年10月18日

3. 実施場所

泉自然公園 (千葉県千葉市若葉区)

4. プログラム等

9時30分 泉自然公園の駐車場に集合

9時30分～12時30分 谷底のショウブ田～上の池～中の池～下の池～ハス池に沿って林縁部などを観察

12時30分頃 花木の広場付近で軽い昼食

13時30分頃 駐車場で解散

5. 対象・参加人数 (内訳)

8人 (うち責任者1人、講師1人)

6. 活動の内容・状況・感想 (参加者並びに主催者)

天候に恵まれ、暑くもなく寒くもなく絶好の観察日和になりました。新型コロナウイルスの影響で春の観察会は中止となり、秋も開催が危ぶまれましたが、マスクやフェイスシールドの着用などの対策をしながらの実施となりました。

泉自然公園は元の自然を活かして作られた公園で、カタクリの群生地として有名です。1969年に開園しており、約50年が経っています。谷底部は以前、水田として利用されていましたが、現在はショウブ田や水生植物園となっています。斜面林は開園当時からコナラ、クヌギ、イヌシデ等の落葉樹林であったようです。

今回の観察会は、谷底の池に面した南北の斜面に観られる植物を中心に行われました。

林縁部は定期的に草刈りが実施されているため、植物の種類が多様です。秋に花を咲かせるキバナアキギリ、サラシナショウマ、イヌショウマ、ツクバトリカブト、アキカラマツ、ヤマハッカ、ハダカホオズキ、タイアザミ、ヒヨドリバナ、シロヨメナ、シラヤマギ

ク、ノガリヤス、オオアブラススキ、ヤマホトトギスなどの植物がみられました。天気が良かったせいか、シマヘビやヤマカガシなどのヘビもみかけました。

林内には昨年の台風や大雨の影響と思われる樹木の根返りや崖崩れが所々で見られました。高圧送電線の下は9年ぶりの大規模に伐採が行われており、伐採後の斜面には帰化植物のセイタカアワダチソウやベニバナボロギク、ススキ等が群生していました。池に面した遊歩道こそ土砂は取り除かれています。池に土砂が流れ込んだ跡がありました。伐採後の崩れやすくなった所に台風が通過し、土壌が大きく崩れたようです。昨年の台風が与えたインパクトの大きさを改めて感じました。

公園の西側（駐車場の反対側）の荒れたスギ植林の明るい林床などにキツリフネが異常に群生していて黄色い花があちこちに咲いており、花も少し大きいような感じがしました。キツリフネ自体が県内では分布の少ない植物であり、千葉県レッドリスト（2004年）ではAランクとされています。現地で永嶋さんに御指摘いただきましたが、千葉県植物誌資料22号（2007年）で大野啓一氏が「謎の巨大キツリフネ」として千葉県若葉区貝塚町で確認されたキツリフネについて報告されているのですが、それと同様のものかもしれません。ほか、近年、各地の公園などで確認事例が増えている腐生ランのマヤランを参加者の方が確認されました。林縁部の道端にたくさん花茎を出していました。

参加者の福田さんや八木さんは、泉自然公園によく足を運ばれている方々で、公園の状況や植物に大変に御詳しく、色々と御教示いただきました。皆さま、ありがとうございました。



観察会の様子



高圧送電線下の状況



キバナアキギリ



キツリフネ？



マヤラン